

大溝藩の学校

江戸幕府の教育政策

慶長8年（1603）に開かれた江戸幕府は学問、特に儒学の教えが社会の安定につながると考え、幕政の基盤作りには林羅山をはじめとする儒学者を召し抱え、儀式の調査や法令の制定などに重用しました。寛永7年（1630）には、林羅山に土地を与えて、後の幕府の官学・昌平坂学問所の礎となる学館（学校）を建てさせる



脩身堂跡の碑（高島学園の南東）

など、儒学をはじめとする学問の奨励に努めます。

こうした幕府の教育政策は、全国の諸藩・大名にも影響を与え、安永・天明年間（1772～89）になると、各地で、藩士の子弟の学校となる藩校が、続々と設けられるようになりました。

脩身堂の設立

大溝藩の藩校として城下に脩身堂が設立されたのは天明5年



脩身堂扁額

（1785）6月で、これは近江国内の藩では、最も早い動きでした。当時の藩主は大溝藩第8代の分部光実で、藩校の設立は、学問を好んだ第7代藩主である父・光庸の志でもありました。

この時期の大溝藩は、作物の不作や悪疫の流行、災害等が続いたため、財政的には困難な状況にありましたが、光実は、そうした社会不安の解消にこそ、教育の力が必要であると考え、自ら質素儉約の生活の範を示して藩士の理解を得て、藩校の設立を実現しました。

藩校での教育

藩校の開設にあたっては、儒学者として大溝藩に仕えていた中村徳勝が、文芸奉行に任命されました。徳勝の父・季貫は、中江藤樹の三男・常省の門人で、中村家からはこの後も脩身堂の学頭や学者が輩出されました。

藩士の子弟は、8歳になると脩身堂に入学することになっており、学科として読書・算術・筆道・習礼がありました。授業は、毎日8時から14時に行われ、13歳以上の生徒は、その後、武芸場へ向かいました。学風は、比較的自由

で、教官の意向が尊重されていました。また、この地を訪れた著名な学者が招かれることもあり、文政4年（1821）8月には、昌平坂学問所の教授であった佐藤一斎が藤樹書院に参拝した際に、脩身堂で講義を行っています。

脩身堂での日常の行動は、開設と同時に制定された「脩身堂条目」によることとされ、この中には、当番の生徒3人は、学内の掃除を入念に行い、先生が到着した際には玄関障子際まで出迎えること、また13歳以上の生徒は袴の着用が決められているなど、文武以外の教養を高める教育が行われていました。

文化財課 ☎（25）8559

編集感

皆さん！「湖西線キャラメル」って知っていますか？
これは、「鉄道を活かした湖西地域振興協議会」が、湖西線を盛り上げるために開催している、InstagramとTwitterを利用したキャンペーンで、先着1200人にプレゼントされる記念品なんです！

参加方法を確認して、湖西線キャラメル（非売品）を手に入れよう！（Y.O）



広報たかしま

令和3年

3

月号 No.254

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課
〒502-1502 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp